

地域包括ケアシステム

(医療と介護の連携)

—行政との連携進捗状況—



南那須医師会の取り組み

医療法人東寿会 佐藤医院 佐藤 充

南那須地区は那須烏山市と那珂川町で構成され、人口約44000人、この5年間の人口増減率は約－8%（全校平均－0.75%）、65歳以上の高齢化率34%（全国平均26.3%）になっています。

当医師会では平成27年12月からコーディネーターを中心に在宅医療連携拠点整備事業に取り組んでまいりました。実質16ヶ月でしたが、今年度からは行政が主体の在宅医療介護連携推進事業に移行し継続されます。2年間の成果と今後の取り組みについて考えてみました。

この二年間で、実際のところ目に見える成果は多くはありませんでしたが、幾つかについて述べさせていただきます。

多職種連携会議が二ヶ月に一回開催されました。メンバーは現在26名ですが、テーマにより随時増員となります。この会議での話し合いを通し、当地域の在宅医療・介護連携の課題抽出と解決策の検討に取り組んできました。

鮎みの会（多職種合同カンファレンス）を三ヶ月に一度開催していますが、警察・消防・学生を含め約60名が参加し「顔の見える関係作り」「情報の共有」「症例検討を通し資質の向上」を図ってまいりました。懇親会には、大雪の中52名が参加し大いに盛り上がりました。楽しく地域全体で本事業が進められ、「顔の見える関係作り・多職種連携」など、地域包括ケアシステムの一部となるネットワーク構築へ一歩踏み出したと考えております。

住民の意識調査でも在宅医療への考え方が徐々に浸透してきたと思われれます。平成28年11月の講演会終了後では以前に比べ、在宅医療を知っている人が80.3%から93%と13%増加し、最期を何処で迎えたいかでは自宅が52%から62%と10%増えました。

また従来の一師会が、前年度から看護師会も参加し四師会となりました。

新たに強化型在宅診療所が始まり、月例のカンファレンスには訪問看護師、ケアマネジャー、薬剤師、看護師が参加し意見交換もなされています。

さて29年度からは在宅医療介護連携推進事業に

受け継がれます。重点7項目を医師会、行政、両者共同で行うものに分けてみました。（ア）地域の医療介護資源の把握（イ）在宅医療・介護連携の課題抽出と対応策の検討（ク）在宅医療・介護連携者に関する関係市町村の連携に関しては行政が行い、（ウ）切れ目のない在宅医療と介護の提供体制の構築（エ）在宅医療・介護関係者の情報共有支援を医師会が行い、他の（オ）相談窓口（カ）研修、（キ）地域住民への普及は両者で行うことになりました。このように、医師会と行政が、それぞれのワーク・会議等で忌憚なく話し合いを行い、事業が協働で展開されていくことは大きな成果であります。

次に、今年度の具体的計画について述べます。

研修では「病院と地域の看護師の連携や在宅への想いのギャップを埋める」を目標に病院看護師、訪問看護師、施設看護師・介護士等の施設間相互研修を考えています。住民向け講習会では、6月に芦花ホームの石飛幸三先生の講演会、2月には市民団体の「地域医療を守る会」との合同研修として住民によるパネルディスカッションを考えています。

前年度のアンケートの結果、住民は最期には出来れば自宅での自然死を望んでいます。家族と話し合うまでには至っていません。29年度は終活についての出前講座を考えており、行政と共同で終活ノートを作成中です。

本年度は、多職種会議を親会議として在宅医療推進委員会WG、連携支援室設立WG、退院支援WGと三つのワーキンググループを立ち上げ、昨年度に残された課題に対して積極的に取り組んでいく予定です。

当医師会の殆どの診療所では、かかりつけ医として在宅医療に取り組み、看取りまで行っています。今後も在宅支援診療所（強化型も含め）への参加を呼びかけます。

南那須医師会としては平成30年度から始まる地域包括ケアシステムに円滑に移行できるように努めてまいります。